

活動報告書

報告者氏名: 上嶋 早苗 所属: 三重県立特別支援学校北勢きらら学園

記録日: 2015年 2月 20日

【対象児の情報】

- ・学年…中学部 1年生
- ・障害名…肢体不自由、知的障害を伴う自閉症
- ・障害と困難の内容

【実態とこれまでの経緯】

- ・視覚が優位である。
- ・何をするか、何を言われているか分からないとパニックになる。動けない。
- ・発語は数語（好きなことを言う）。

・受け身で自分から発信することが少ない。



中1男子

・パターンに入りやすく、変更・変化が苦手。

・歩行器を使用している
・好きなことは食べること、ゲームなど。

しかし

コミュニケーションブックがあればやりとりできる！！



重い

持ち運べない

分厚い

マヒがあり、歩行器を使用しているため、コミュニケーション手段であるカードブックを持ち運ぶことが大変になった。誰かに持ってきてもらう、ある時にだけ表出できるということが起こってきた。

シンボルや写真を何枚入れても大きさや重さが変わらない、コンパクトな「iPhone」をコミュニケーション手段として、導入することにした。

【活動目的】

- ・当初のねらい…「iPhone」を活用してスケジュール理解や表出を行ってきた。中学部に進級した本年度も引き続き同じように活用できる。具体的には次の①～④に取り組むことにした。

①学校・学校以外でもスケジュールを活用して自ら動くことができる。

【取り組み先】 学校・家庭・通院病院・利用施設



首から「iPhone」をかけているので、いつでもどこでも確認できる。

具体的に

誰かに言われて動くのではなく、分かって自分から動きだすことができる。

学部や場所が変わっても、スケジュールを見て動ける。

(先を見据えて)「明日のスケジュール」を自分で入れることができる。

②学校で、担任ではない教員にもしたいこと、欲しいこと、困っていることを伝えることができる。

→「やってくれるのを待つ」「助けてくれるのを待つ」のではなく、困っていることも伝えられるようになる。

③学校以外の場所でも店員やヘルパー施設職員にしたいことや行きたい場所を伝えることができる。

【取り組み先】 家庭・利用施設・

店(コンビニ等)



具体的に

店員に欲しいものを伝え

休日はヘルパーと一緒に外食に行き、食べたいものを注文できる。

(先を見据えて) 休日の過ごし方が分かり楽しみにする。

④自分で欲しいものの写真をとることができる。

→本当に欲しいもののシンボルが「iPhone」に入っていない時がある。

その時にカメラを起動して写真を撮ることができる。



・実施期間 2014年 4月～2015年 2月 ・実施者 上嶋早苗<旧担任>・担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

①(学校・学校以外の場所でスケジュールを活用して自ら動く)

学部（環境）が変化したことで怒ることや、不安定になることがあった。また、受身的で言われるまで動かないことが多くなった。iPhone へのスケジュール入力は、前日に紙を見ながら行っていた。しかし、教員の一つ一つの確認が必要で、一人では入力はできなかった。

②(欲しいもの困っていることなど伝えられる)

ブランコや食べたい給食に関しては、誰にでもすぐに表出することができたが、他の場面では、受身的であるため、「やってもらえるのを待つ」場面が多かった。例えば、

- ・閉まっている扉の前で立ちつくす。
- ・通路に物があって通れず、立ちつくす。
- ・靴を履きたいけど一人で履けず、動きが止まる。
- ・自分の椅子に違う人が座っていて座れず、立ちつくす。
- ・歩行器が欲しいが、自分では動かず待っている。など

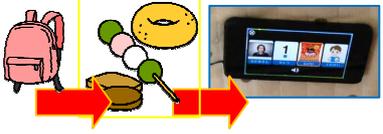
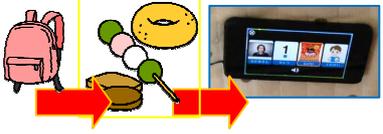
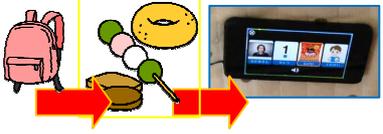
③(学校以外の場所でも店員やヘルパー・施設職員にしたいことや行きたい場所を伝える)

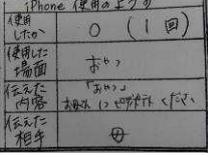
4月当初は、環境の変化から学校からの買い物を定期的に行くことができなかった。さらには、移動支援も中断していた。放課後ディサービス（以下放課後ディ）では、他の利用者より穏やかに過ごせていた。

④(必要なものの写真をとる)

シンボルは全て教員が用意していた。6年生の3学期頃から、「先生、シンボル、入れて」と表出練習をして、入っていないシンボルを入れてもらう学習を行ってきていた。しかし、なんのシンボルを入れてほしいのかが分からない、教員が気持ちを汲まないと伝えられないという状況になっていた。

・活動の具体的内容

	具体的取り組み内容(方法)	事後の変化														
① 自ら動く スケジュール	<p>・スケジュールを確認し、動き出すのを待つ。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">学部が変わって、教員間で支援・ねらいについて確認する</th> </tr> <tr> <td>・ことばがけを減らす（自分で確認するのを待つ）</td> <td>・行先、変更を明確に知らせる。（ことば+視覚支援で）</td> </tr> </table> <p>・翌日のスケジュールを毎日入力する。</p> <table border="1"> <tr> <th>教員が紙を折って入力する段階</th> <th>教員が印をつけて入力する段階</th> <th>一人で入力する段階</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・家・放課後ディ・休日移動支援の場面のスケジュールを準備し、打ち合わせを行う。</p> <table border="1"> <tr> <th>好きなもののスケジュールしか確認できていない段階</th> <th>〇〇したらおやつタイムが分かる段階</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	学部が変わって、教員間で支援・ねらいについて確認する		・ことばがけを減らす（自分で確認するのを待つ）	・行先、変更を明確に知らせる。（ことば+視覚支援で）	教員が紙を折って入力する段階	教員が印をつけて入力する段階	一人で入力する段階				好きなもののスケジュールしか確認できていない段階	〇〇したらおやつタイムが分かる段階			<p>・中学部に進級しても、iPhone スケジュールを見ながら動き出せることが増えてくる(5月頃から)。</p> <p>・一日分のスケジュール入力が、紙を見ながら一人で行えるようになった。</p> <p>→以前のスケジュールをすべて消して、新しい予定を入力する。</p> <p>・楽しみにしていた買い物が雨で行けない時は、怒ることや動けないこともあるが、日を変更して納得することが多くなった。</p> <p>・学校以外でもスケジュールを見ることが増える。(例えば、家ではスケジュールを確認し、かばんの片づけをする。など)</p> <p>・学校を休んだ日、家庭で次の日のスケジュールを入れた！！</p>
	学部が変わって、教員間で支援・ねらいについて確認する															
	・ことばがけを減らす（自分で確認するのを待つ）	・行先、変更を明確に知らせる。（ことば+視覚支援で）														
	教員が紙を折って入力する段階	教員が印をつけて入力する段階	一人で入力する段階													
																
好きなもののスケジュールしか確認できていない段階	〇〇したらおやつタイムが分かる段階															
																

② 困っているものの表出等	<p>してもらい段階 (動かず、伝えず・待つ。)</p>	<p>教員と文を構成し、助け てもらい方を知る段階</p>	<p>自分から文を構成し、 伝えてくる段階</p>	<p>・目の前にある欲しいもの、したいこと(ブランコやトランポリンなど)は担任以外の教員にも伝えられることが多くなった。</p> <p>・困った時は、待っていることや、知っている言葉(「手伝って」)を何度も言う。何かを伝えようとはするが、具体的な表出ができない場面がまだまだある。</p>
				
③ 学校外の取り組み	(家)			<p>(家)…おやつを表出から広がりが見られ、これが欲しいと伝える場面もできた。(家庭との連携)</p> <p>(買い物)…小学部から取り組んでいたため、どのコンビニの店員にも欲しいものを伝えられる。</p> <p>しかし、近くにいる教員の名前を入れて、店員に「先生、1つ、〇〇ください」と伝えることがあり、欲しい気持ちが勝り相手への意識が弱くなる。</p> <p>・買い物の手順を間違えることはなく、伝える→お金の支払い→お釣り・商品の受け取りがどの店でもできる。</p> <p>(放課後ディサービス・移動支援)</p> <p>施設内で欲しいものを伝える段階</p> <p>店に行き、食べたい、買いたいものを選ぶ段階</p> <p>行きたい店を選ぶ段階</p> <p>「〇〇さん(施設職員)、空気(エアトランポリン)、下さい。」</p> <p>「1つ、〇〇バーガーセット下さい。」</p> <p>「お母さん、お母さんのスマホ、下さい」</p> <p>「先生、1つ、〇〇ください」と伝えることがあり、欲しい気持ちが勝り相手への意識が弱くなる。</p> <p>・初めはカメラに対象物がおさまらず、何を撮ったのかが分からなかった。現在は、iPhoneを手前に引いて、対象物がおさまるように撮ろうとする姿がみられる。</p> <p>・コンビニで欲しいジュースのシンボルを撮って、店員に表出して購入する。</p>
	<p>食べたいお菓子を表出する段階</p> <p>・毎日のおやつを自分で決めて、食べている。</p> <p>母が毎日記録</p> 	<p>お菓子以外にも欲しいものを伝える段階</p> 		
	<p>決められた中から買う段階</p> <p>・飲み物やアイスクリームなど、カテゴリーの中から自分で選んで伝える。</p>	<p>欲しいものを伝えて買う段階</p> <p>・店の中を自分で見て決めて欲しいものを伝える。</p>	<p>どの店でも買い物ができる段階</p> 	
	(放課後ディサービス・移動支援)			
<p>施設内で欲しいものを伝える段階</p> <p>「〇〇さん(施設職員)、空気(エアトランポリン)、下さい。」</p> 	<p>店に行き、食べたい、買いたいものを選ぶ段階</p> <p>・振替休日や月2回移動支援で外食する。</p>  <p>「1つ、〇〇バーガーセット下さい。」</p>	<p>行きたい店を選ぶ段階</p> 		
④ 写真撮影	<p>撮り方を教員と一緒に覚える段階</p>	<p>目の前のものを一人で取る段階</p>	<p>欲しいものを選択して写真を撮る段階</p>	<p>・初めはカメラに対象物がおさまらず、何を撮ったのかが分からなかった。現在は、iPhoneを手前に引いて、対象物がおさまるように撮ろうとする姿がみられる。</p> <p>・コンビニで欲しいジュースのシンボルを撮って、店員に表出して購入する。</p>
				

【報告者の気づきとエビデンス】

	主観的気づき	エビデンス(具体的数値など)												
① 自ら動く・スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から動き始められる スケジュール自体があることで、新しい学部に進級しても「何を するのか」が分かり、安心して過ごせた。自ら動きだせることも 多かった。 ・変化・変更を受け入れられる 好きなものが変更されると、動けなくなることもあるが、スケジ ュールシンボルを自分で動かし、変更を受け入れることができた。 ・学校外でもスケジュール活用ができる 放課後ディや移動支援でもスケジュールを見て、何をするのかを 確認することが増えた。例えば、食事を食べ終わると、自分から スケジュールアプリを開き、「バス停」のシンボルを押して“バス 停に行く”とヘルパーに伝えてくる。 	<p>分かることで、動ける。怒る回数が減 る。</p> <p>中学部に進学した が、怒りは減少。</p> <table border="1"> <caption>怒る回数(週あたり)</caption> <tr><th>学年</th><th>回数</th></tr> <tr><td>4年時</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>5年時</td><td>0.55</td></tr> <tr><td>6年時</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>中1</td><td>1</td></tr> </table>	学年	回数	4年時	2.5	5年時	0.55	6年時	1.5	中1	1		
学年	回数													
4年時	2.5													
5年時	0.55													
6年時	1.5													
中1	1													
② 困りの表出等	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時の表出・担任以外への教員の表出が増えた 小学部ではなかった「PCW ってください」「リュック拾ってくだ さい」など表出する内容に広がりが見られた。しかし、状況や場 面が変わると表出ができなかったり、困って立ち止まったりする ことも見られる。今後は、場面を設定しながら、表出の仕方を学 びつつ汎化できるようにしていきたい。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小学部</th> <th>中学部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手をつないで 扉をあけて</td> <td>リュック拾って PCW取ってなど</td> </tr> <tr> <td>2 場面</td> <td>8 場面</td> </tr> </tbody> </table> <p>【困った場面の表出】</p>	小学部	中学部	手をつないで 扉をあけて	リュック拾って PCW取ってなど	2 場面	8 場面						
小学部	中学部													
手をつないで 扉をあけて	リュック拾って PCW取ってなど													
2 場面	8 場面													
③ 学校外の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・学校以外から買い物に行く回数が増えた コンビニ以外の店でも、どの店員にも欲しいものを伝えられた。 学校以外の場所から出かけることで、自分の行きたいところを決 めて出かけられ、公共交通機関を利用する、料金を支払うなどが 定期的に経験することができた。 ・関わる人への広がりがみられる バス待ちの人から声をかけられる、バスの運転手、店員など関わ る人が増えた。 ・休日の楽しみができた スケジュールを見てヘルパーが来るのを待っている。一度行った 店に行きたがり、他の店にあまり行きたがらない。新しい店のシ ンボルを入れておいても、自分で変更している。 ・欲しいものを伝えられるだけでなく、店自体も選ぶようになった 	<p>どこから買い物にいった？</p> <table border="1"> <caption>どこから買い物にいった？</caption> <tr><th>学年</th><th>移動支援など</th><th>学校</th></tr> <tr><td>5年 (10か月)</td><td>4</td><td>33</td></tr> <tr><td>6年 (12か月)</td><td>13</td><td>37</td></tr> <tr><td>中1 (10か月)</td><td>28</td><td>22</td></tr> </table> <p>学校以外から 出かける 回数 増加。</p> <p>自分から支払い。</p>	学年	移動支援など	学校	5年 (10か月)	4	33	6年 (12か月)	13	37	中1 (10か月)	28	22
学年	移動支援など	学校												
5年 (10か月)	4	33												
6年 (12か月)	13	37												
中1 (10か月)	28	22												
④ 写真撮影	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物を撮るのが上手くなる 対象物が枠内に収まることはほとんどなく、何を撮っているのか 分からないものが多かったが、今では半分以上はフレームに収め られる。また、写真を撮った後は、自分でシンボル選択し文字入 力の画面を触ったり、録音ボタンを触ったりして、教員に入れて 欲しいことを伝えてくるようになった。 ・撮った写真で店員に伝えられる、伝わる。 校外学習等で、メニューから食べたいものの写真を撮ってシンボルを 作成し(教員が文字、録音はする)、店員に伝えた。伝えたいシン ボルがない時は、写真を撮るといふことも少しずつ理解し、カメラを 作動させている。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>10月</th> <th>10月</th> <th>11月中旬</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>枠にほと んどおさ まらない</td> <td>枠におさ まるが、 中心から ずれる。</td> <td>枠からは み出さ ず中心に おさめる。</td> </tr> <tr> <td>好きなカ レンダー シンボル 撮影</td> <td></td> <td>給食の みかん</td> </tr> </tbody> </table>	10月	10月	11月中旬				枠にほと んどおさ まらない	枠におさ まるが、 中心から ずれる。	枠からは み出さ ず中心に おさめる。	好きなカ レンダー シンボル 撮影		給食の みかん
10月	10月	11月中旬												
枠にほと んどおさ まらない	枠におさ まるが、 中心から ずれる。	枠からは み出さ ず中心に おさめる。												
好きなカ レンダー シンボル 撮影		給食の みかん												

(その他エピソード(画像などを含めて))

- ・家庭でもスケジュール入力できた。
- ・学校以外でもiPhone活用の理解が広まってきており、表出場面を考えてくれたり、聞こえやすい手立て
を考えてくれたりしている。将来の生活をイメージしながらこれからも連携していきたい。

家庭でスケジュール入力する様子。

